

社会課題のソリューションとして——日清食品の最適化栄養テクノロジー

飽食の時代と言われる現代において、オーバーカロリーや隠れ栄養失調、フレイルなど、食と健康をめぐる課題は多様化しています。

当社は独自の最適化栄養テクノロジーにより、新規事業を推進し、多様なタッチポイントとオケージョン展開を通じ、持続可能な食生活とWell-being向上に貢献します。

食と健康をめぐるさまざまな社会課題

超高齢社会対策

未病対策

女性の低栄養対策

現代の食生活は豊かになっている反面、
多種多様な問題点も抱えています

ヤングケアラー／ひとり親の食事支援

障がい者支援

災害支援

社会課題のソリューションとしての最適化栄養テクノロジー

あらゆる場所で
生活者とのタッチポイントの広がり

あらゆる場面で
オケージョンの広がり

最適化栄養 テクノロジー

- ☑ カロリー・塩分・糖質・脂質を適切に管理
- ☑ たんぱく質・脂質・炭水化物の理想バランス
- ☑ 33の栄養素をバランスよく整える

忙しい日の夕食に！



手軽に済ませたい昼食に！



時間がない時の
朝食に！



食後のデザートや
夜食にも！



小腹がすいた時の
おやつに！



健康経営の推進

- 社員食堂への導入
(給食型／スタンド型)



EC・店舗販売・
中食外食協業の強化

パッケージフード／
お弁当・惣菜・基材



医療連携

- 食事制限のある方の
生活習慣改善
- 食のQOL改善



フレイル対策

- 高齢者の健康寿命の延伸
- 介護負担の削減、
医療費の削減



海外展開／
フードデザート
問題の解決



街・
コミュニティ

- 未病対策先進シティ
に貢献
- Toyota Woven City
での実証実験

世界中で、最適化栄養食のさらなる普及を目指す

日清食品グループは、最適化栄養食の幅広い普及が世界をもっと健康に、もっとハッピーに変える原動力になると確信しています

新規事業の推進 「完全メシ」ブランドのポテンシャル

2025年度の完全メシ売上は100億円を突破、タッチポイント・商品の拡大を通じて需要を創出しています。

2028年度以降は、さらなる市場形成と認知拡大に向け、規律ある投資を継続しつつ、国内の黒字化と海外展開の加速を両立し、持続的な成長を実現していきます。

これまでの成果

国内

国内における「完全メシ」販売は、累計7,400万食(2026年7月末)を突破。認知度も50%超を維持しています。従来のパッケージフードに加え、ドリンク、パン、菓子、ジェラートまでラインナップを拡充し、多様な食シーンへの展開を進めています。

累計**7,400**万食
突破！

ブランド認知率
約50%超^{※1}

**100億円
ブランド達成！**

常温品 全18品※2

主食

間食・ドリンク



冷凍品 全47品※2

完全DEFI+市販品



※1 2025年11月時点 ※2 2026年7月末時点

海外

海外展開も着実に進展中。米国では2025年に冷凍ヌードルを発売し、好調につき全米3,000店へと拡大しています。

欧州でもドイツでのテスト販売の成功を受け、展開エリアを拡大。

今年度からイギリスでも本格展開を開始しています。

 米国

KANZEN MEAL
冷凍食品

2025年6月 発売開始

2025年度 **3,000**店舗で販売

2026年度 **5.200**店舗で販売

 ドイツ イギリス

KANZEN MEAL
カレーメシタイプ

2025年10月 発売開始

2025年度 **400**店舗で販売

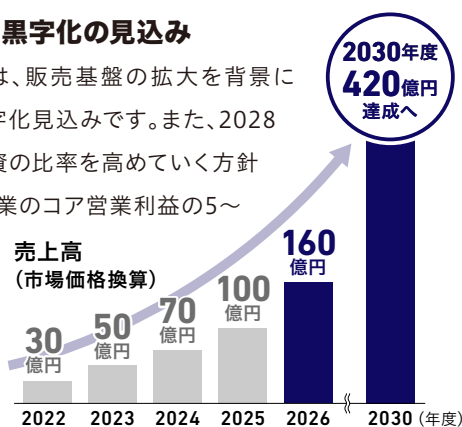
2026年度 **3,100**店舗で販売



各事業における黒字化の見込み

国内事業については、販売基盤の拡大を背景に2028年度以降、黒字化見込みです。また、2028年度以降は海外投資の比率を高めていく方針です。今後も既存事業のコア営業利益の5～

10%の範囲内で
規律ある投資を
維持しながら成
長を加速してい
きます。



国内および海外の各事業における黒字化予想

事業年度	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
市場価格換算売上高	70億円	100億円	160億円				420億円
BtoC グロサリー					2028年度 黒字化		
BtoC フローズン				2027年度 黒字化			
BtoB	社食事業				2026年度 黒字化		
	小売・外食・メーカー協業				2028年度 黒字化		
海外事業						2029年度 黒字化	

注)上記以外の国内その他事業(および海外事業)を除く。また、研究開発費は含まない

新規事業の推進 最新トピックス

新規事業の拡大に向けて、多角的な取り組みを行っています。機関投資家・アナリスト向け説明会ではCOO自らが登壇し、事業の可能性について直接対話を実施。また「完全メシ カレーメシ 欧風カレー」がカップライス初の「日本災害食認証」を取得するなど、事業認知と信頼獲得に向けた歩みを着実に進めています。

機関投資家・アナリスト向け新規事業説明会を開催

機関投資家・アナリストの皆様の新規事業に対する理解を深め、当社に対する長期的な成長への期待を醸成することを目的に、新規事業説明会を実施しました。当日は、取締役副社長・COOの安藤徳隆自らが経営の視点に立って、新規事業の意義と取り組みをお伝えしました。新規事業が目指す姿、活用するフードテック、完全メシブランドの最新動向、海外展開や黒字化に向けた道筋などを説明するとともに、参加者との率直な対話や新商品を含む試食も実施。当社の技術力や価値提案を体験いただく機会になりました。質疑応答では、成長性や投資方針、既存事業とのシナジー、グローバル展開など幅広いテーマについて質問が寄せられ、投資家・アナリストの皆様の関心の高さがうかがえました。今後も資本市場との建設的な対話を通じて、新規事業の進捗と成長ポテンシャルの可視化に努めていきます。



新規事業説明会 概要

実施日	2026年4月7日
形式	対面（東京本社）
参加者	国内外機関投資家、セルサイドアナリスト 28名
登壇者	日清食品ホールディングス株式会社 代表取締役副社長・COO 日清食品株式会社 代表取締役社長 安藤 徳隆

機関投資家・アナリストより —Q&Aの一例—

Q. 「完全メシ」のビジネスは、どのような姿を目指しているのか？

A. 加工食品の自社提供（製品ビジネス）とソリューション提供（レシピ・基材提供のビジネス）の両方に可能性を見出しています。判断基準は「完全メシ」のタッチポイントを増やせるかどうか。自社でできることと、パートナー企業が担えることを見極めながら、コンセプトを広げていくことが重要と考えています。

Q. ブランド認知率50%超から、さらにマインドシェアを高めるための戦略は？

A. 昨年度末にスーパーマーケットの売上がコンビニエンスストアを上回り、ブランドとして定着し始めました。「完全メシ」という名称が広く浸透し、一般用語として使われてきた点にも着目しています。スーパーマーケットのバイヤーからも評価が高まっており、今後は量販店を中心にカバー率・タッチポイントを広げていく考えです。

Q. 今後M&Aなどの非連続的な成長手段が必要になる可能性は？

A. 十分にあります。特に海外では、生産設備と営業網を一気に獲得するM&Aの必要性が高いと考えています。一方、国内の生産面のシナジーを狙うM&Aは、慎重に検討していきますが、パンやアイスクリームなど当社グループにとって新カテゴリーのノウハウを持つ人財の獲得が重要と考えています。

Q. 既存事業コア営業利益の5～10%の新規事業投資は、国内黒字化で減っていく？

A. 国内の新規投資コストは減少していきませんが、海外への投資が増加するフェーズに入ります。2030年までは既存事業コア営業利益の10%程度を上限としてスピード重視で活用し、先行者利益の確保を優先します。

詳細はWEBサイトをご覧ください
>>>IRイベント：新規事業説明会

「完全メシ カレーメシ 欧風カレー」がカップライス初の「日本災害食認証」取得

日清食品の「完全メシ カレーメシ 欧風カレー」は、カップライスとして初めて「日本災害食認証」を取得しました。お湯を注ぐだけで33種類の栄養素をバランスよく摂取でき、常温で長期保存が可能なこと、栄養面と利便性を両立した災害食として評価されたものです。従来の災害食がカロリー確保を重視するあまり栄養バランスに課題があったなか、当社は「おいしさ」と「栄養バランス」の両立を実現し、日常と非常時をシームレスにつなぐ食の提案（フェーズフリー）を推進しています。また同商品は、防災連携の一環として、一般社団法人 日本最適化栄養食協会から熊本県人吉市へ寄贈され、災害時の備蓄食として活用されています。



2025年6月、熊本県人吉市に
「完全メシ カレーメシ 欧風カレー」
540食寄贈！

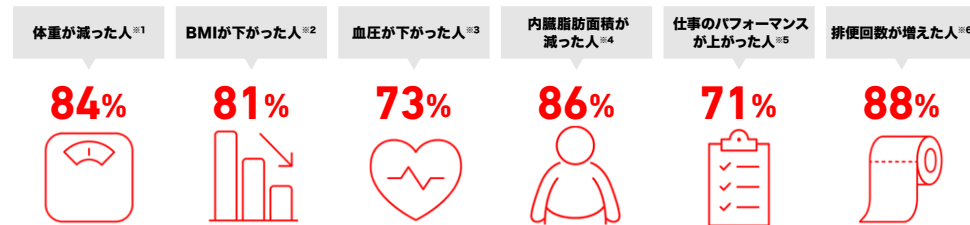
詳細はWEBサイトをご覧ください
>>>ニュースリリース

新規事業の推進 最適化栄養食の基礎研究

33種類の栄養素を過不足なく摂取できるよう設計された最適化栄養食は、理想的な栄養バランスを実現しています。基礎研究と臨床試験を通じて、その可能性は着実に広がり、社会の健康課題解決に貢献していきます。

バイタルデータの改善で健康な身体づくりに貢献

最適化栄養食の有効性を検証するために実施した臨床試験では、1カ月間に提供された84食のうち40食を最適化栄養食に置き換えた結果、栄養バランスの改善とともに、複数の健康指標において有意な変化が確認されており、健康な身体づくりに貢献する可能性が示されています。



注) 右記2種の臨床試験における各評価項目が改善した人の割合を図示 試験① 試験参加者: A社社員110名 試験② 試験参加者: B社社員66名
※1 体重: 解析対象者(男性)102名中86名で体重が減少 試験① 摂取前72.4±8.0 摂取後71.5±7.9 p<0.001 試験② 摂取前77.7±9.2 摂取後76.8±9.3 p<0.001 ※2 BMI(体格指数): 解析対象者(BMI25kg/m²以上の男性)58名中47名でBMIが減少 試験① 摂取前27.5±1.8 摂取後27.2±1.7 p<0.001 試験② 摂取前27.4±2.5 摂取後27.1±2.5 p<0.001 ※3 血圧: 解析対象者(収縮期血圧130mmHg以上かつ/または拡張期血圧80mmHg以上)46名中34名で収縮期血圧が低下 試験① 摂取前136.9±9.0 摂取後128.1±9.5 p<0.001 試験② 摂取前134.0±6.7 摂取後130.1±8.7 p=0.024 ※4 内臓脂肪面積: 解析対象者(内臓脂肪面積100cm²以上)79名中68名で内臓脂肪面積が減少 試験① 摂取前153.9±30.2 摂取後145.6±29.7 p<0.001 試験② 摂取前148.3±34.8 摂取後129.1±38.7 p<0.001 ※5 仕事のパフォーマンスは、プレゼンティズムのスコアをもとに評価。プレゼンティズムとは、WLQ-J試験の総合パフォーマンススコアに基づき、出勤はしているが労働に支障をきたし0%のパフォーマンスしか出せない状態をスコア0、100%のパフォーマンスを出せる状態をスコア100とし、数値化したもの。解析対象者(総合パフォーマンススコアが94未満)64名中46名でスコアが上昇 試験① 摂取前90.9±2.5 摂取後92.6±3.8 p=0.005 試験② 摂取前90.7±2.6 摂取後93.0±3.5 p=0.004 ※6 排便回数: 解析対象者(排便回数週6回以下)27名中24名で排便回数が増加 試験① 摂取前4.2±1.1 摂取後5.6±1.6 p<0.001 試験② 解析対象者が少ないため解析せず
注) Journal of Functional Foods 2022, 92, 105050にて報告されている研究より作成

ストレス・疲労・睡眠の改善で Well-being向上に寄与

最適化栄養食を1日1食・4週間摂取した臨床試験により、ストレス・疲労・睡眠の改善が確認されました。Well-beingの向上に寄与する可能性が示されています。



注) 日本食品科学工学会 第71回大会 (2024年8月31日)にて発表

糖尿病・高血圧患者のQOL向上と 食の選択肢の拡大

糖尿病・高血圧患者向けに、満足度の高い減塩・低糖質の最適化栄養食の可能性を検証しており、臨床試験では血糖値・血圧の改善が確認されました。患者の食の選択肢拡大に寄与する可能性が示されています。

注) 第69回日本糖尿病学会年次学術集会(2026年)にて発表
右の写真はイメージで当社製品とは無関係です



抗老化作用で 健康寿命の延伸に期待

慶應義塾大学医学部との共同研究を通じて、最適化栄養食の継続的な摂取が加齢に伴う身体変化に与える影響を検証しました。その結果、DNAのメチル化年齢^{※7}が平均で約2歳若返るという変化が確認され、健康寿命の延伸に資する可能性が示されました。老化は、細胞内の遺伝子がメチル化することで進行するとされますが、栄養バランスの取れた食生活を継続することで、このプロセスを緩やかにする可能性があることが明らかになっています。最適化栄養食は、加齢に伴う課題への新たなアプローチとしての可能性を広げています。

注) 日本農芸化学会 2025年度大会(2025年3月8日)にて発表
※7 生物学的年齢(vs暦年齢)。加齢で進行するDNAメチル化の程度を測定。生物学的年齢の指標は、疾患リスクや死亡リスクと関連があるとされている



シニアの身体・認知・ 幸福度の維持と向上

シニアに不足しがちな栄養素を強化した最適化栄養食の摂取により、歩行速度・認知機能・幸福度の改善が確認され、加齢に伴う健康課題への新たなアプローチとして期待されています。

注) Nutrients 2023, 15, 4317に掲載



PMS症状の軽減で 女性のQOLの向上に貢献

女性の約95%が経験するとされる月経前症候群(PMS)に対し、最適化栄養食の可能性を検証する臨床試験を実施。葉酸

など不足しがちな栄養素を強化した最適化栄養食を1日2食、12週間168食を摂取していただいた結果、月経前および月経中の身体的・精神的不快の軽減が確認されました。最適化栄養食の摂取による栄養バランスの調整が、PMS症状の緩和に寄与する可能性が示されました。

注) BMC Womens Health 2026, 26, 178に掲載

